

アルゴリズムとデータ構造

基数探索（その1）

演習1（必須課題）

- 離散探索木について、searchR関数を参考にして、insertR関数をST_DST.cに実装し、動作確認をせよ。実行方法は次ページを参照せよ。
- Moodleより入手できるプログラム。
 - ItemD.c, ItemD.h, ST.h, STtestD.c , ST_DST.c

この課題は提出不要

コンパイル/実行

ランダムな5個の要素
を挿入し、表示せよ

```
$ gcc -o STtestD STtestD.c ItemD.c ST_DST.c
$ ./STtestD 5 1
...
$
```

演習2（必須課題）

- プログラムを実行して、トライの動作を確認せよ。実行方法は次ページを参照せよ。
 - Moodleより入手できるプログラム。
 - ItemD.c, ItemD.h, ST.h, STtestD.c, ST_trie.c
 - トライでは「0」と表示がある節点は、内部節点で葉でないもののを表している(葉とは内部節点で、その子がすべて外部節点となるもの)
 - トライでは「**distinct keys**」に「葉」となる節点の個数を表示している
 - トライでは内部道長と外部道長は、単に「-1」と表示している

この課題は提出不要

コンパイル/実行

ランダムな5個の要素
を挿入し、表示せよ

```
$ gcc -o STtestD STtestD.c ItemD.c ST_trie.c
```

葉

```
$ ./STtestD 5 1
```

```
1089 0 6416 0 0 0 38978 0 0 83025 0 88779 0 0
```

...

```
5 keys 5 distinct keys
```

葉でない内部節点

葉の数